

## 京都西山地域の高槻層と超丹波テレーン，丹波テレーンの関係

### The relationship among the Takatsuki Formation, the Ultra Tamba Terrane and the Tamba Terrane in the Kyoto Nishiyama area

# 菅森 義晃[1]; 八尾 昭[2]

# Yoshiaki Sugamori[1]; Akira Yao[2]

[1] 大市大・理・地球; [2] 大市大・理・地球

[1] Dept. Geosci., Fac. Sci., Osaka City Univ. ; [2] Dept. Geosci., Fac. Sci., Osaka City Univ.

大阪府北東部及び京都府南西部に位置する西山地域には，丹波テレーン及びその上位に年代未詳の堆積岩複合体及び年代未詳の高槻層が分布している．近年，楠ほか(1998)が本地域の中・古生界の構造と層序を総括しているが，超丹波テレーンの存在が疑われることや年代未詳の高槻層の存在などを考慮すると，本地域の中・古生界は十分に解明されたとは言い難い．今回，本地域の高槻層，年代未詳堆積岩複合体及び丹波テレーンの再検討を行った．

その結果，本地域は構造的低位から丹波テレーンの出灰コンプレックス(再定義)，本山寺コンプレックス(再定義)及び高槻層に区分され，丹波テレーンとの境界付近の高槻層分布域中には，超丹波テレーンに属すると判断される東大寺コンプレックスが識別された．年代未詳の堆積岩複合体は，泥質チャートから三畳紀中世を示す放散虫化石を産出するので本山寺コンプレックスに属する(後述)．本地域の高槻層と本山寺コンプレックスは緩く西にプランジしたシンフォーム構造をなしている．

東大寺コンプレックスは小規模の地質体で，高槻層中に断層で挟まれる可能性が高い．本コンプレックスは灰緑色～赤色の珪質泥岩からなり，一部チャート質である．安養寺ほか(1987)はこの珪質泥岩からペルム紀新世の *Neoalballiella ornithoformis* 群集を報告しており，今回の検討でも *Neoalballiella grypa* Ishiga, Kito and Imoto, *Cauletella* sp., *Raciditor* cf. *gracilis* (De Wever and Caridroit) 及び *Latentifistularia* gen. et sp. indent. を得た．東大寺コンプレックスは岩相及び珪質泥岩の年代から超丹波テレーンの UT2 ユニットに対比されるものと考えられる．

丹波テレーンの本山寺コンプレックスは構造的上位から混在相の大沢サブコンプレックス(仮称)，砂岩・泥岩からなる整然相～破断相の柳谷サブコンプレックス(仮称)に細分される．両者は断層で接する．

大沢サブコンプレックスからは，赤色珪質泥岩から三畳紀中世の放散虫化石群集が産する(武蔵野・丹波地帯研究グループ，1993:本報告)．また，年代未詳の堆積岩複合体の泥質チャートから三畳紀中世 Anisian を示す放散虫化石群集，*Triassocampe coronata* Bragin, *Triassocampe deweveri* (Nakaseko and Nishimura), *Triassocampe* sp. 及び *Pseudostylosphaera japonica* (Nakaseko and Nishimura) を産出した．したがって，この地質体はペルム紀の付加複合体ではなく，大沢サブコンプレックスに含まれる．柳谷サブコンプレックスは若干の凝灰岩を含み，黒色泥岩から三畳紀新世前期の放散虫化石群集の報告(楠，1994)及び形質泥岩から三畳紀中世の放散虫化石群集が報告されている(丹波地帯研究グループ，1995)．

出灰コンプレックスは混在相からなり，本山寺コンプレックスとは断層で接する．本田・丹波地帯研究グループ(1991)は泥岩から *Salra* sp., *Gorgansium* sp. 及び *Entactinids* を報告しているが，赤色珪質泥岩からジュラ紀型の放散虫化石が産出したので，本コンプレックスはジュラ紀古世に形成されたと考えられる．

高槻層は砂岩を主体とする碎屑岩層で，丹波テレーンの構造的上位に位置し，丹波テレーンとは断層で接する．本研究において，本層の泥岩中のノジュールから *Eptinguim nakasekoi* Kozur and Mostler, *Eptinguim* sp., *Plafkerium*(?) *antiquim* Sugiyama, *Hozmadia* sp., *Oertlispongus diacanthus* Sugiyama, *Pseudostylosphaera* sp. 及び *Pseudostylosphaera compacta* Sugiyama が産出し，これらの放散虫化石群集は三畳紀中世 Anisian を示すので，本層は三畳系中部を含む地質体である．この三畳紀中世 Anisian の放散虫化石の産出は，高槻層の年代だけではなく，高槻層に対比される味間層や長尾山層の年代論に一石を投じるものである．戸倉・高城山団体研究グループ(1987)の報告を考慮すると，高槻層・味間層は三畳紀中世に前弧海盆的位置で超丹波テレーンを不整合に覆って形成されたと考えられる．